

オンライン授業に関する実施状況と学生の評価 —言語活用科目としての韓国・朝鮮語授業を中心に—

Implementation Status and Evaluation of Students in Online Classes: Focusing on Korean Language Course as Language-based Subjects

柳 朱燕

Ju-Yeon Ryu

Abstract

In this study, students' perceptions of online classes were clarified by analyzing the results of class questionnaires by students, focusing on Korean language courses established as language-based subjects. First, as a result of comparing and analyzing the evaluation of face-to-face classes in 2019 and online classes in 2020, it was found that students who took face-to-face classes rather than online classes placed importance on classes, actively participated in classes, conducted self-study well, and had a high level of understanding of the contents of classes. Second, in a survey of online classes conducted in the first and second semesters of 2020, we clarified what factors cause students to be most troubled by online classes and examined their solutions. In addition, in the question asking the form of classes that we want to take in the next semester, it became clear that the demand for face-to-face classes increased over time, but the demand for online classes also appeared continuously, and we found that we had to think about the organization of online classes as well as face-to-face classes.

はじめに

2020 年春、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響によって緊急事態宣言が出され、愛知淑徳大学 (以下、「本大学」にする) では全面的にオンライン授業を導入し、約 1 ヶ月遅れた 5 月に春学期の授業が始まった。これまで教室での対面授業に慣れている学生や教師たちは相当な努力と緊張感を持って新たな学習形態であるオンライン授業に臨まなければならなかった。学生たちはオンライン授業が受けられる通信機器や通信環境の整備から始め、Microsoft Teams などの学習 Moodle への使用まで授業以外の部分にも運用方を学ばなければならなかった。教師たちは、オンライン授業に適する教材の作成、ビデオ講義、フィードバック、オンライン上の学生評価など既存の教育システムを紙面からウェブ上にアップデートする作業はもちろん、様々なソフトウェア技術の習得も必要であった。不本意ながらオンライン授業という学習形態を経験してきた 1 年が経ち、今は誰でもオンライン授業の長短所を実感できる状況とな

った。しかし、オンライン授業に関して漠然とした感想よりは、客観的な資料分析に基づいた評価が今の時期必要であろう。

本論文では、本大学で言語活用科目として開設されている韓国・朝鮮語科目を中心に、オンライン授業での実施状況を紹介し、学生による授業アンケートを分析した結果を述べる。授業アンケートでは、2019 年の対面授業の評価と 2020 年のオンライン授業の評価を比較しながらオンライン授業に対する学生の認識と態度を明らかにする。また、2020 年前期・後期で行われたオンライン授業に対する調査の結果を分析し、今後オンライン授業の限界点と改善点を探したい。この研究の結果がこれからのオンライン授業に役立つ情報を提供することと、これからの授業形態に新たな提案となることを願う。

1. 韓国・朝鮮語科目におけるオンライン授業の概要

本研究で授業アンケート調査を行った科目は、筆者が担当していた以下の 16 科目である（表 1）。「韓国・朝鮮語入門」と「KBS1（韓国・朝鮮語入門 A）」の授業は週 2 回、4 単位の科目で、その以外の科目は週 1 回、2 単位の科目である。授業アンケートの回答者は 2020 年前期 147 名、2020 年後期 213 名であり、回答者の学年構成を以下の表 1 に示した。

表 1 授業アンケートを実施した科目リストと回答者

2020 年前期					2020 年後期				
韓国・朝鮮語入門 韓国・朝鮮語入門 KBS1（韓国・朝鮮語入門 A） KLS1（韓国・朝鮮語読解①） KLS2（韓国・朝鮮語読解②） 韓国語能力試験対策 1 韓国語能力試験対策 2					韓国・朝鮮語入門 韓国・朝鮮語入門 KBS1（韓国・朝鮮語入門 A）※オンデマンド KLS1（韓国・朝鮮語読解①） KLS2（韓国・朝鮮語読解②） KLS3（韓国・朝鮮語読解③） 韓国語能力試験対策 1 韓国語能力試験対策 2 韓国語能力試験対策 3				
1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計
54(37%)	51(35%)	30(20%)	12(8%)	147 名	93(44%)	75(35%)	32(15%)	13(6%)	213 名

1) 授業形態と配布資料

2020 年後期の「KBS1（韓国・朝鮮語入門 A）」の授業を除いてすべての科目はリアルタイム双方向授業を行った。リアルタイム双方向授業とは、授業時間割に記載されている曜日・時限で、教員と学生がリアルタイム（同時）双方向にて行う授業である。授業担当教員と受講者が

同時にアクセスをして Microsoft Teams のビデオ会議の機能を通して、教室で受ける授業のようにオンライン上でリアルタイムに授業を行う。授業は基本的に教科書の通りに進行し、授業資料としてプリントが配られる場合がある。特に「韓国・朝鮮語入門」と「KBS1（韓国・朝鮮語入門 A）」の授業では 20 枚を超えるプリントが配られるので、オンライン授業に変わった 2020 年春学期からはすべての受講者にプリントを印刷し、配布資料として郵送した。

2) 授業内容と進行

授業内容の説明は教科書を中心に行われ、Whiteboard というソフトを開き、黒板に板書をするような形でタッチペンを用い、板書をしながら説明した。授業を行う際に学生の名前を当たって文章を読ませたり、クイズを出したりして学生の参加が活発にできるように心がけていた。質問がある学生はビデオ会議が終わる際に残り、先生に質問するように案内した。また、授業時間の後でも Teams のチャット機能を利用して気軽に質問するように勧めた。授業の内容は対面授業で行った内容と全く同じ内容で、進み方もオンライン授業だからといって減らしたり省略したりしないで、対面授業と同じ目標が達成できるように計画した。特に対面授業より増えた内容は、オンライン環境で韓国語の活用性を高めるために、スマホでハングルの入力方法やパソコンでのハングルキーボード操作方法を教えたことである。これは学生が授業以外の場面でも自由にハングルの使用ができるようにするためである。リアルタイムでの授業は 90 分の授業時間内で授業を聞いて課題が出せるように時間の計画を立てたので、60 分程度で説明を終えて残りの 30 分程度を課題の時間として与えていた。課題のフィードバックは次の授業の始めに簡単に答え合わせを行った。

3) 授業録画とプライバシー保護

すべての授業は録画をして、Microsoft Stream でアップロードしたが、その科目の受講者のみ視聴ができるように制限をかけていた。授業動画の提供は、リアルタイムで授業が受けられない場合、その動画が後日活用できることを考え提供したが、授業アンケートによると、授業中理解できなかったところがあれば、もう一度動画を見て確認したり、発音の練習を繰り返したりして授業動画の活用度が高かったという高い評価をもらった。授業を録画する際は、学習者のプライバシーを守るため、学生のカメラをオフにするように伝えた。授業の最初に挨拶とお知らせを伝える時は、カメラをオンにするよう指示したが、それを守る学生は徐々に少なくなり、途中からは教師のカメラのみオンにしたまま授業を行う時が多かった。

4) 課題と成績評価

毎回課題が出されて、Teams の課題の機能を利用して課題の配布や集合を行った。毎回授業の出席は取らずに課題の提出を出席として認め、平常点として成績評価に反映した。中間・期末テストはリアルタイムで行って、語学科目ならではの「聞き取り問題」を積極的に取り入れ

て試験の難易度を調節した。試験問題は外部に流出できないようにファイルで提供せずに、リアルタイムの画面上で見られるようにした。リアルタイムでの試験時間が終わったら、Microsoft Forms で答えを入力するように指示した。答えは選択問題を含めてハングルで入力する問題もあり、不正行為を防ぐためになるべく多様な問題を構成した。試験の際は教科書とプリントの持ち込みは可能だが、通訳アプリケーションの使用は禁止されていた。通訳アプリケーションの使用が発覚されたら、その試験は無効になることを警告した。不正行為ができないように時間の制限と学生同士の答え一致率を見ていた。万が一不正行為があった場合はその試験が無効（0 点）になることを注意させた。

2. 対面授業とオンライン授業での学生による授業評価

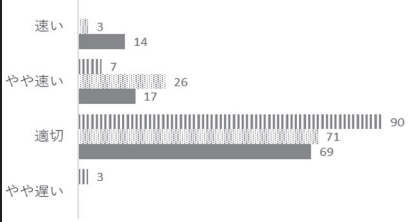
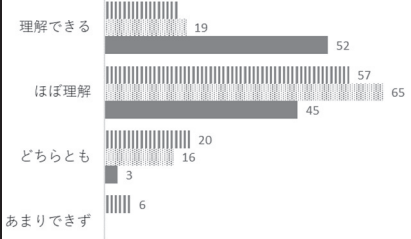
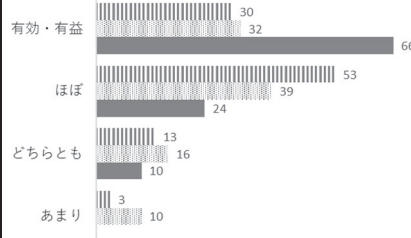
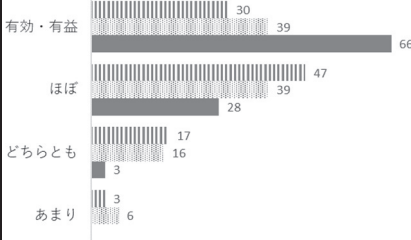
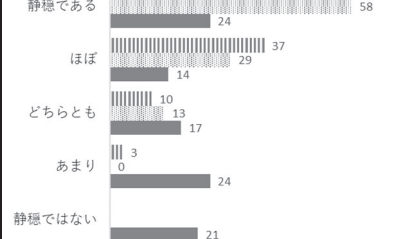
2020 年、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、本大学は毎年行われてきた授業アンケートの調査を見送ることを決めた。しかし、筆者はオンライン授業と対面授業に対して学生による授業評価にどのような相違点があるか調べるため、独自で授業アンケートの調査を行った。まず、対面授業とオンライン授業の相違点を明らかにするため、2019 年授業アンケートを実施した科目と同じ科目を対象に、授業アンケート調査を行った。2019 年授業アンケートを実施した科目は「韓国・朝鮮語入門 105001-04」という長久手キャンパス開設の科目で週 2 回（火 3 限、金 1 限）4 単位、韓国・朝鮮語の初心者向けの授業である。授業の内容と進み方は 2019 年と 2020 年で変わりはなく、授業形態のみ対面授業からオンライン授業へ変わっていた。授業アンケートの調査項目も 2019 年度実施されたものと全く同じ項目で調査を行い、授業形態を変数にして他のものは同じ条件に揃えるようにコントロールをした。調査は 2020 年前期（2020 年 7 月 28 日実施）と後期（2020 年 12 月 11 日実施）で 2 回実施し、2019 年の結果と比較しながら分析を行った。調査の結果は以下の表 2 でまとめた。

授業の進み具合に関しては、「適切」と答えた学生が最も多く、「やや速い」と「速い」順になっていて、対面授業とオンライン授業での相違点はあまり見られないことが分かる。2020 年前期と後期を比べると、後期の方で「適切」と答えた学生が 90%に昇り、2 回分の授業を課題で振替した前期と比べて、余裕のある授業運営ができたことがその結果の原因として思われる。

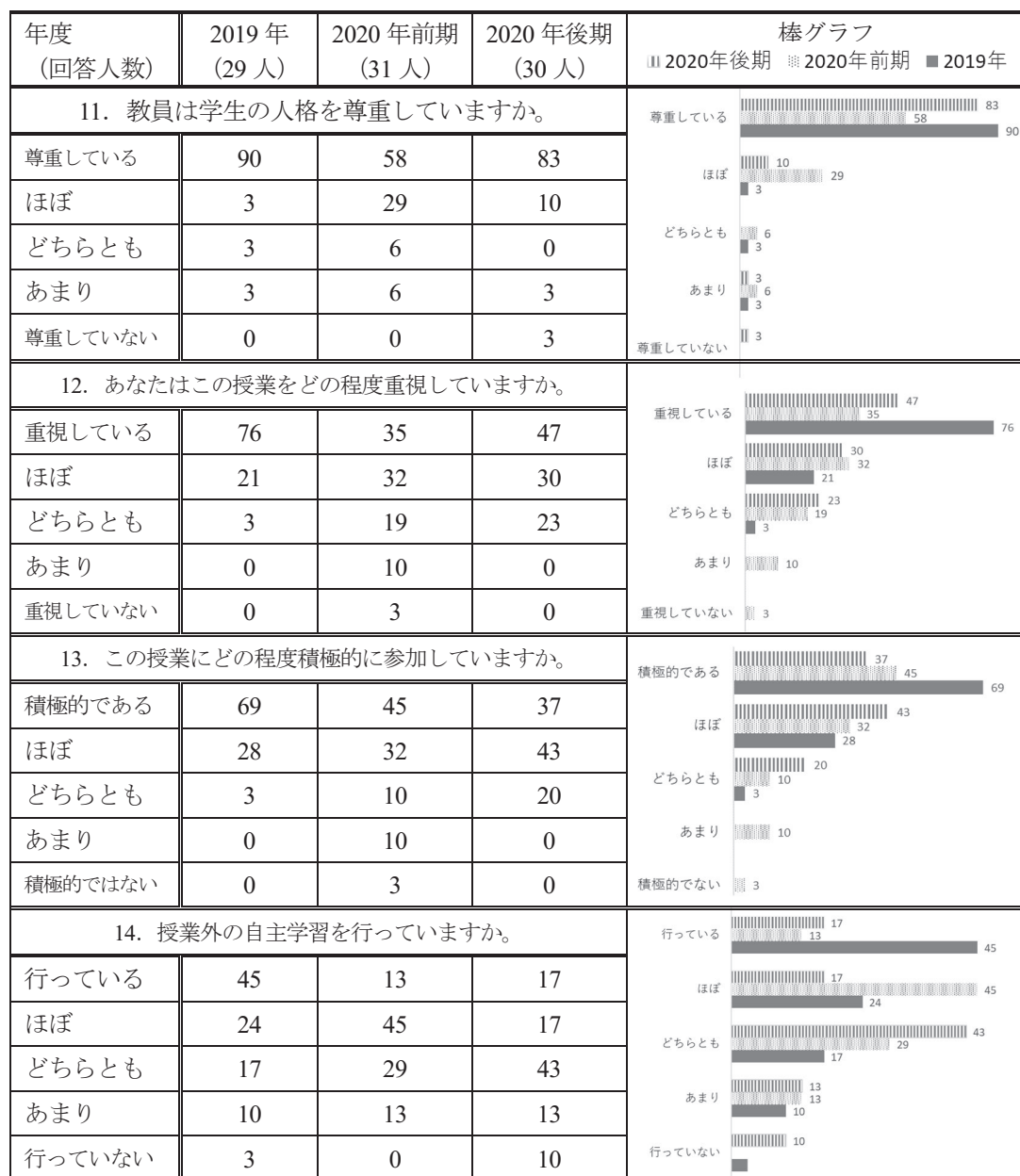
授業内容の理解については、対面授業よりオンライン授業で「理解できる」と答えた学生が著しく減ったこと（52%→19%）が分かる。オンライン授業では「理解できる」（19%、17%）より「ほぼ理解できる」（65%、57%）が 3 倍以上多く、「どちらとも言えない」（16%、20%）も少なくない。前述したように授業の内容と進み方は対面授業とオンライン授業で同じである。しかし、オンライン授業が行われた 2020 年以降、授業を受けている学生が自己判断で「理解できる」とはつきり答えられない状況になってしまったことは看過できない事実である。これは同じ内容を教えたとしても対面授業よりオンライン授業で学習した場合、鮮明な理解を邪魔するオンライン環境の制約があり、理解すべき概念の曖昧さが増加し、結果的に理解度が低下してしまったと考えられる。

表2 対面授業（2019年度）とオンライン授業（2020年度）での授業アンケートの結果

（韓国・朝鮮語入門 105001-04 科目基準、構成比（%）、構成比合計省略、未回答無し）

年度 (回答人数)	2019 年 (29 人)	2020 年前期 (31 人)	2020 年後期 (30 人)	棒グラフ ■ 2020年後期 ■ 2020年前期 ■ 2019年
1. 授業の進み具合は適切ですか。				
速い	14	3	0	
やや速い	17	26	7	
適切	69	71	90	
やや遅い	0	0	3	
遅い	0	0	0	
2. 授業の内容は理解できますか。				
理解できる	52	19	17	
ほぼ理解できる	45	65	57	
どちらとも言えない	3	16	20	
あまり理解できない	0	0	6	
理解できない	0	0	0	
3. 授業の内容は大学での学修にとって有効・有益ですか。				
有効・有益	66	32	30	
ほぼ有効・有益	24	39	53	
どちらとも	10	16	13	
あまり有効・有益でない	0	10	3	
有効・有益ではない	0	3	0	
4. 授業の内容は卒業後の人生にとって有効・有益ですか。				
有効・有益	66	39	30	
ほぼ有効・有益	28	39	47	
どちらとも	3	16	17	
あまり有効・有益でない	0	6	3	
有効・有益ではない	3	0	3	
5. 教室は静穏な環境が確保されていますか。				
静穏である	24	58	50	
ほぼ静穏	14	29	37	
どちらとも	17	13	10	
あまり静穏ではない	24	0	3	
静穏ではない	21	0	0	

年度 (回答人数)	2019 年 (29 人)	2020 年前期 (31 人)	2020 年後期 (30 人)	棒グラフ ■ 2020 年後期 ■ 2020 年前期 ■ 2019 年
6. 教員の声や話し方は聞き取りやすいですか。				
聞き取りやすい	93	55	67	聞き取りやすい 67 55 93
やや	4	32	27	やや 27 32 4
どちらとも	3	13	0	どちらとも 13 3
やや	0	0	3	やや 3
聞き取りにくい	0	0	3	聞き取りにくい 3
7. 板書やプレゼンテーションは理解しやすいですか。				
理解しやすい	90	48	60	理解しやすい 60 48 90
やや	7	39	13	やや 13 39 7
どちらとも	3	10	17	どちらとも 17 10 3
やや	0	3	7	やや 7 3
理解しにくい	0	0	3	理解しにくい 3
8. 配布資料は授業の理解の役に立ちますか。				
役に立つ	86	84	70	役に立つ 70 84 86
ほぼ役に立つ	14	13	23	ほぼ役に立つ 23 13 14
どちらとも	0	8	7	どちらとも 7 8
あまり役に立たない	0	0	0	あまり役に立たない
役に立たない	0	0	0	役に立たない
9. 授業の進み方は授業計画に沿ったものですか。				
授業計画どおり	83	58	60	授業計画どおり 60 58 83
ほぼ計画どおり	14	29	40	ほぼ計画どおり 40 29 14
どちらとも	3	6	0	どちらとも 6 3
あまり計画どおりではない	0	6	0	
計画どおりではない	0	0	0	あまり 6
10. 授業の成績評価基準について説明されていますか。				※グラフ省略
説明されている	100	97	97	
説明されてない	0	3	3	



授業の内容が大学での学修にとって、又は、卒業後の人生にとって有効・有益であるかを問う質問に関して、対面授業では「有効・有益である」と答えた学生が最も多く 66%に昇ったものの、オンライン授業では「ほぼ有効・有益である」と答えた学生が多く (39~53%)、「有効・有益である」と答えた学生がその次に多かった (30~39%)。対面授業でこの授業の内容は「有効・有益である」と自信を持って答えられた学生が、オンライン授業へ授業形態が変わった場合、自信を失い「ほぼ有効・有益である」だろうという確信が欠けた認識に変わってしまった可能性がある。

授業を受ける場所に関する質問に対して、対面授業よりオンライン授業で静穏な環境が確保できると答えた学生が多かった。対面授業では「教室は静穏な環境が確保されていますか」という質問で、オンライン授業では「授業を受ける場所は静穏な環境が確保されていますか」と聞いてみた。オンライン授業では学生の家で授業を受ける場合が多く、隣に友達や他の生徒がいないため、私語によって邪魔される環境ではない。実際の対面授業では学生をペアにして会話の練習をさせたり、毎回新しい単語を先生の前で口頭で覚える小テストをさせたりしたので、静かな教室よりはアクティブな発話ができる雰囲気のある教室だった。その理由で教室は静穏な環境ではないと判断した学生が多いと思われるが、その評価についてはポジティブな面もネガティブな面もあると思われる。従って、オンライン授業ならではの特性上、静穏な環境が確保しやすい長所があると考えられる。

教員の声や話し方と板書やプレゼンテーションについては、対面授業の方がオンライン授業より理解しやすいと答えた学生が多かった。対面授業では 90%以上の学生が「聞き取りやすい」「理解しやすい」と答えたが、オンライン授業では 48~67%の学生が「聞き取りやすい」「理解しやすい」と答え、教員の教え方について対面授業の方が高い評価をもらったと思われる。それは教員の教え方、そのものの問題だけではなく、オンライン授業を受ける環境、即ち PC やスマートフォンなどの通信機器と Wifi などの通信設備のトラブルが関係するかもしれない。通信機器の画面の大きさによって教員の板書が見にくいこともあり、通信トラブルによって教員の声が切れたりすることもある。これが原因で授業内容の理解度が低くなった可能性もある。

配布資料に関しては対面授業とオンライン授業の両方で「役に立つ」(70~86%)と評価された。また、授業の成績評価基準の説明に関しても、対面授業とオンライン授業の両方で「説明されている」(97%)と評価された。しかし、授業計画に関しては、「授業の進み方は授業計画どおりである」と答えた学生が対面授業で多く(83%)、オンライン授業では対面授業より低い数値(58~60%)になってしまった。これはとても大事な示唆点がある。なぜなら、筆者は対面授業とオンライン授業で一回も授業計画を破ったことがないからである。教員が授業計画どおりに授業を進めていても、学生が感じる評価は授業形態によって違うということが分かる。対面授業とオンライン授業で認識の差が見られたのは、根本的に学生が授業に対する態度や動機付けが異なるからである。対面授業では教員と学生の間に信頼関係が形成され、授業に臨む学生の態度と学ぶ意欲(動機付け)も高い状態になっている。しかし、オンライン授業では教員と学生の間に信頼関係が形成する機会が少なく、学生も授業に対して積極的で意欲的に参加する機会も与えられてない状況である。学生にとっては動機付けが高くない科目に高い評価を下すわけにはいかない。対面授業とオンライン授業ではそもそも評価のベースラインが違うかもしれない。このような傾向は次の 12 番から 14 番の設定問にも現れている。

教員は学生の人格を尊重しているかを問う質問に関しては、対面授業と後期のオンライン授業で「尊重している」と答えた学生が多かった(90%、83%)が、前期のオンライン授業では「尊重している」と答えた学生が 58%で高いと言にくい結果になった。2020 年前期はオンライン

授業が始まった学期で、教師としても慣れてないオンライン授業を運営する際に様々な試行錯誤があったと思う。例えば、授業中、学生のカメラをオンにしておくことを指示したり、試験の不正行為を防ぐために様々な厳しい条件を与えたりして学生に緊張感を覚えさせたかもしれない。しかし、後期オンライン授業の結果を見ると、また大きく上がったので、オンライン授業に対する教師の経験値の増加がポジティブな結果に繋がったと考えられる。

学生がこの授業をどの程度重視しているかを問う質問では、「重視している」と答えた学生が対面授業で最も多く（76%）、2回のオンライン授業では35%、47%で対面授業ほど高くない結果が得られた。その傾向は次の設問「あなたはこの授業にどの程度積極的に参加していますか」の結果と類似している。自分が積極的に参加していると評価した学生は対面授業で多く（69%）、オンライン授業では対面授業での数値を大きく下回る（37%、45%）結果になった。従って、対面授業の方が学生の積極的な参加があり、授業を重視する態度を見せていると言える。

最後の設問である「授業外の自主学習」については、対面授業では「自主学習を行っている」と答えた学生が最も多い（45%）ものの、前期のオンライン授業では「ほぼ行っている」が最も多い（45%）答えになった。しかし、後期のオンライン授業では「どちらとも言えない」と答えた学生が最も多く（43%）なり、時間の経過につれ自主学習をしない方向に変わっていたことが分かる。この結果はこれからのオンライン授業の在り方について示唆するところが大きい。学生はオンライン授業に慣れすぎて、どのようにすれば先生の管理監督から離れ、小さな努力で成果を得るのか悪い要領を覚えたかもしれない。その反省点としてこの質問に誠実に答えたと考えられる。この点に関してはオンライン授業の限界点と改善点について論じた次の章で詳しく考察したい。

3. オンライン授業における学生の評価

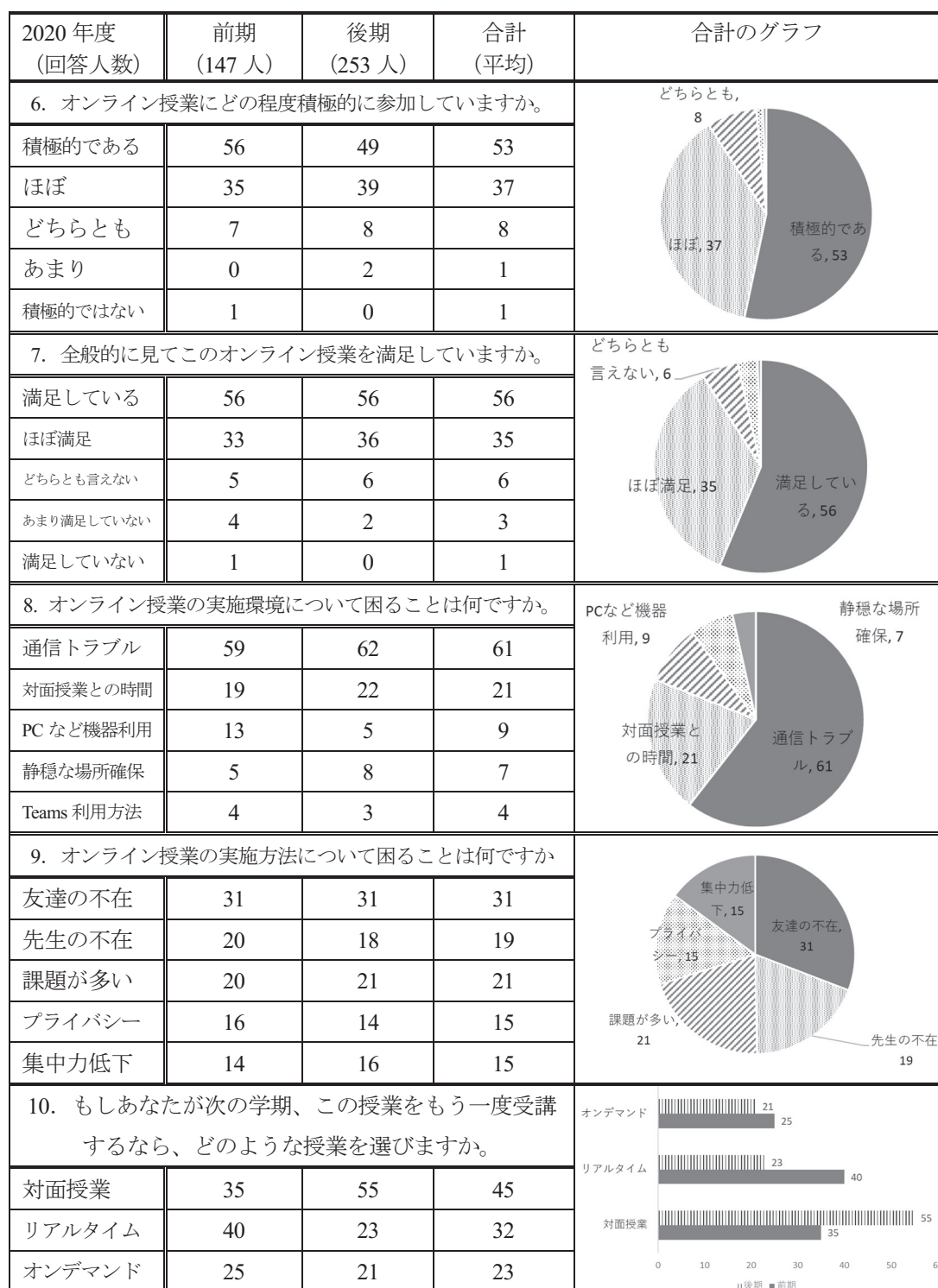
本節では、学生によるオンライン授業に関するアンケートの結果について述べる。授業アンケートの設問項目は以下の参考資料1に載せてある。調査は2020年前期（2020年8月3日～7日実施）と後期（2020年12月7日～11日実施）で2回実施し、前期と後期の結果を比較しながら分析を行った。調査の結果は以下の表3でまとめた。

オンライン授業の進み具合については前期と後期ともに、「適切」が最も多く（82%、84%）、「やや速い」が次に多かった（16%、13%）。オンライン授業の理解については、合計（前期と後期の平均）の数値で「ほぼ理解できる」が最も多く（45%）、「理解できる」が次に多かった（38%）。この結果は前節の2019年対面授業の結果（「理解できる」52%、「ほぼ理解できる」45%）と比べると、理解度が高いと言にくい結果である。これは「授業の内容が理解できる」と自ら確信を持って言える学生の数が少なくなったことを意味している。教師としての筆者はオンライン授業に変わったとして従来の学習目標に満たせないことが無いように、従来のシラバスと同じ内容を2020年のオンライン授業で教えていた。しかし、オンライン授業という授業の形態が変わり、PCやスマホの画面を通して学習を行い、たまに先生の呼びかけでマイクを

表 3 オンライン授業に関する授業アンケートの結果

(合計は前期と後期の平均、構成比(%)、構成比合計省略、未回答無し)

2020 年度 (回答人数)	前期 (147 人)	後期 (213 人)	合計 (平均)	合計のグラフ
1. オンライン授業の進み具合は適切ですか。				<p>やや速い, 15</p> <p>適切, 83</p>
速い	1	0	1	
やや速い	16	13	15	
適切	82	84	83	
やや遅い	1	0	1	
遅い	0	0	0	
2. オンライン授業の内容は理解できますか。				<p>どちらとも言えない, 13</p> <p>理解できる, 38</p> <p>ほぼ, 45</p>
理解できる	41	35	38	
ほぼ理解できる	39	51	45	
どちらとも言えない	16	9	13	
あまり理解できない	3	5	2	
理解できない	1	0	1	
3. オンライン授業で教員の話し方は聞き取りやすいですか。				<p>どちらとも, 8</p> <p>やや聞き取りやすい, 22</p> <p>聞き取りやすい, 66</p>
聞き取りやすい	60	72	66	
やや	22	21	22	
どちらとも	11	4	8	
やや	5	3	4	
聞き取りにくい	1	0	1	
4. オンライン授業で教員の板書は理解しやすいですか。				<p>どちらとも言えない, 7</p> <p>やや理解しやすい, 31</p> <p>理解しやすい, 56</p>
理解しやすい	54	58	56	
やや	31	31	31	
どちらとも	7	7	7	
やや	6	4	5	
理解しにくい	1	0	1	
5. 授業の場所は静穏な環境が確保されていますか。				<p>どちらとも, 9</p> <p>ほぼ静穏, 34</p> <p>静穏である, 56</p>
静穏である	52	60	56	
ほぼ静穏	37	31	34	
どちらとも	10	7	9	
あまり静穏ではない	1	2	2	
静穏ではない	0	0	0	



オンにして答えたりする機会があっても、先生の説明を一方的に聞く受動的な授業が行っていたのは否定できない。そして、学生はカメラをオフにすることによって、先生の管理監督から

逃れることが可能になる。先生やクラスメートの目線を気にしなくてもいいので、集中力が切れたり、他の行動に気を散らかしてしたり、授業を真面目に受けられない環境になりやすい。また、課題の提出や試験に友達やネット上の答えをコピーしたりして不正行為を行う学生もいた。従って、オンライン授業によって、学生は自ら自己管理を厳しくしないといけない状況に落ちてしまった。その劣悪な環境の中、授業の理解度の下落は予測可能なことかもしれない。

教員の話し方や板書については、合計で「聞き取りやすい」(66%)、「理解しやすい」(56%)が最も多く、板書の理解が話し方の理解より低い結果になったものの、前期と後期の差はほとんどなく安定した満足度を見せている。授業を受けている場所は静穏であるかどうかの質問に対して、学生は「静穏な環境だ」(合計 56%)と答えて「ほぼ静穏である」(合計 33%)の答えを合わせると、ほぼ9割の学生が授業を受ける場所は静穏な環境を確保されていると判断した。

オンライン授業に積極的に参加しているかを問う設問では、合計で「積極的である」(53%)、「ほぼ積極的である」(37%)と答え、前節の2019年対面授業の結果(「積極的である」69%)と比べると、学生が積極的に参加していると言いにくい結果である。

オンライン授業の満足度に関しては、「満足している」という答えが最も多く(56%)、「ほぼ満足している」(35%)が次に多い。「満足している」と「ほぼ満足している」の答えを合わせると90%以上になり、満足の傾向にあると思われる。前節の2019年対面授業の結果と比較してみたが、2019年の調査では授業の満足度を問う設問は無かったので、直接比較することはできない。そこで、本論文ではオンライン授業に関するアンケート調査の結果を公表している他大学の結果を引用して授業の満足度について考察を行う。東大新聞社「第1回東大のオンライン授業アンケート編」(2020年8月8日付)記事を見ると、オンライン授業への満足度を聞く質問には、回答者の20.0%が「とても満足している」、49.6%が「まあ満足している」と回答している。学年別では、学部1、2年で「とても満足している」「まあ満足している」の合計がそれぞれ5割弱、6割弱にとどまったのに対し、学部3、4年はどちらも8割を超えており、学年が低いほどオンライン授業への満足度が低いことがうかがえた。また、京都芸術大学「2020年度前期オンライン授業アンケート概況」(2020年8月7日付)報告書では、オンライン授業の総合的な「満足度」を4段階(満足、どちらかというと満足、どちらかというと不満、不満)で評価すると、全学年では「満足20.0%」「どちらかというと満足53.3%」と回答した学生が73.3%を占めている。また、白百合女子大学「2020年度前期『遠隔授業に関する状況調査アンケート』の実施状況」(2020年7月9日)の報告書では、オンライン授業への満足度を聞く質問に、授業について「満足している」学生が47.1%だが、33.8%は「どちらでもない」、14.7%は「あまり満足していない」の結果が得られた。三つの大学の結果を総合的に見ると、「満足している」と評価した学生が69.6%(東京大学)、73.3%(京都芸術大学)、47.1%(白百合女子大学)で、本研究の満足度(「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせて91%)は高い水準であることが分かる。

「オンライン授業の実施環境について困ることは何ですか(複数回答可)」という設問では、

「WiFi や LAN ケーブルなど通信のトラブルが生じる」と答えた学生が最も多くて 61%、次に「大学の行事や対面授業などで、リアルタイムでオンライン授業が受けられない場合がある」が 21%、「授業を受けるためにスマホや PC、プリンターなどの機器の利用方法が分からない」が 9%、「家の中で静かに授業を受ける場所が確保できない」が 7%、「Teams の利用方法が分からない」4%になった。通信環境について、多くの学生は自宅または現在の住まいで契約している WiFi を使用していることを考えると、問題なく受信できている学生が比較的多いと思われるが、リアルタイム授業中、通信が時折途切れるなど通信状態に問題を経験する学生が多いことが分かる。その対策として、リアルタイムで授業を行っても授業内容をレコーディングして授業動画を送る方法を提案したい。これは自宅の WiFi に通信トラブルがあっても、後日授業動画を見ることによって授業を補うことができるからである。

「オンライン授業の実施方法について最も困るところは何ですか（複数回答可）」という設問では、「授業内容を確認したり、進み具合などが質問できる友達がいない」と答えた学生が最も多く 31%、次に「授業で出されている課題が多くて、休む時間がない」が 21%、「先生に質問したり、直してもらったりする先生とのやり取りができない」が 19%、「PC やスマホの画面上で行われる一方的な授業に集中できない」と「オンライン授業で自分の顔が映るのは嫌で、プライバシーが保護できるのか心配である」がそれぞれ 15%になった。一緒に勉強できる友達がいないことと、先生とのやり取りができないことは、人間関係に基づいた社会的な存在としての人間の基本的な要求であり、オンライン授業の弱みが分かる答えだった。

最後に「もしあなたが次の学期、この授業をもう一度受講するなら、どのような授業を選びますか」という選好する授業の形態を問う設問を設けた。結果は前期と後期で大きく異なり、前期では、リアルタイム (40%) が対面授業 (35%) より高かったが、後期では、対面授業 (55%) がリアルタイム (23%) よりはるかに上回る結果となった。言い換えれば、対面授業に対する要望が、時間の経過に伴って、上がっていくことが分かった。これは学生の立場から見ると、2020 年度 1 年を通してオンライン授業を受けていて、その長所と短所が分かった上で判断した結論なので、慎重に受け止めなければならない。しかし、ここで興味深いことは、対面授業 (55%) を選んだ学生が多くなったけど、まだ半分程度の学生はオンライン授業（リアルタイム+オンデマンド）を選んでいて、オンライン授業に対する需要が充分にあるということである。オンライン授業の長所としてよく言われている「自分のペースで学習できる」とこと「学校までの移動時間が無くなる」ことなどのメリットは相当大きくて、ポストコロナ時代でもオンライン授業が新たな生活様式の一つになる可能性が高いだろう。

以上で表 3 の結果（選択式設問）を中心に述べたが、オンライン授業のアンケートでは、自由記述式の設問もあり、ここでその結果をまとめる。参考資料 1 を見ると、調査票の最後の 3 問 (12~14 番) が記述式質問であり、各設問に対する学生の回答を、重複した内容を省略して、書いておく。

【問 12】 オンラインで行われたこの授業に関して良かったところがあれば、書いてください。

- 遠距離通学で大学まで 2 時間かかるので、移動時間が短縮されたこと。
- 先生の顔を見て受けられるのはいいと思った。
- 1 時間で授業が終わるように構成してくださっているため、課題に充てる時間も設けられている点。
- オンラインだと対面授業よりも集中力が続きにくいので授業時間が 1 時間以下ほどであったことが集中力持続につながった。
- 長久手キャンパスでは受けられなかった読解 3 が履修できたことです。
- 対面授業の時と変わりなく、テキストに沿って分かりやすく説明していただけた点がとても良かったです。
- 録画されているので、万が一通信障害が起きても授業を受けることができること。
- 授業中に聞き取れなかったり理解しづらかったりしたところを録画で何度でも確認できるところ。
- 会話が大切な言語の授業なので、リアルタイムで先生と会話を少しですが臨機応変にできる点は良かったですと思います。
- 恥ずかしがらずに家で一人で発音練習できる。気兼ねなく音読ができる。

【問 13】 オンラインで行われたこの授業に関して改善点などがあれば、書いてください。

- たまに先生の声が Wi-Fi の影響で途切れて聞こえる時がありました。
- パソコンに手書きで書かれた韓国語が少し読みづらい部分がある。
- テストのときに問題用紙の文字が小さくて見づらい。
- 課題の提出が、その日のうちだったことが忙しい時大変でした。
- 学生の発言回数が増えると良いと感じた。
- 先生に会って直接質問できないこと。先生に質問などがしにくい。

【問 14】 オンラインで行われたこの授業に関して自分の学習態度や取り組みに反省点などがあれば、書いてください。

- 気が緩む時が多々あったので気をつけたい。
- 学習態度の反省点として、途中で集中が切れるとだらけてしまう。
- 対面で行うよりもアウトプットが自分で意識しないとできない点です。
- 回線トラブルが生じて授業をしっかりとけなかったことで、やる気を無くしてしまうことが多かった。
- 課題の出し忘れが多かったこと。
- やはりオンラインだからと油断しているのか度々 1 限に寝坊してしまうのは反省だった。
- 授業開始時間ぎりぎりにパソコンを起動することがたまにあるので、オンラインでも時間に余裕をもって授業の準備をするようにしたいです。

終わりに

本稿では、本大学で言語活用科目として開設されている韓国・朝鮮語科目を中心に、学生による授業アンケートの結果を分析しながら、オンライン授業に対する学生の認識と今後の改善策などを考察した。対面授業とオンライン授業を比較した結果では、オンライン授業より対面授業を受けた学生は、授業を重視していて、積極的に授業へ参加し、自主学習をよく行い、授業内容の理解度が高いことが分かった。また、受けた授業が大学での学修や卒業後の人生にとって有効・有益であると高く評価していることが分かった。オンライン授業が新型コロナウイルス感染症の拡大によって教育権を守るためのやむを得ない選択肢であったものの、その学習効果は期待に応えられない水準に留まった。オンライン授業に対する調査では、授業の満足度や理解度、参加度などが他の大学の調査と比べると高い水準であることが分かった。また、オンライン授業の実施環境や実施方法で学生が最も困っている要因は何かを明らかにし、その解決策を考察してきた。さらに、次の学期で受けた授業の形態を聞く設問では、対面授業の要望が時間の経過につれ高くなったことが明らかになったものの、オンライン授業に対する需要も持続的に現れ、対面授業と同時にオンライン授業の編成も考えなければならない状況が分かった。

しかし、慶應義塾大学 SFC で行われた「オンライン授業受講に関する調査結果報告」を見ると、オンライン授業に対する教員の認識と学生の認識に大きな差が見られた。教員はオンライン授業の感想と学習効果を評価する際、否定的な評価が多かったが、学生はその反対で、オンライン授業に好意的で肯定的な評価をしているのが明らかになった。教員として授業を教える側である筆者は、この報告書の結果を見て、本研究の結果を考察する際、教員側に沿った偏った考えで分析したかもしれないと反省をした。本研究の狙いは、オンライン授業が実施されて1年が過ぎた時点で学生がどのように評価しているかを調べ、オンライン授業の限界点と改善点を考慮した上に、これから授業形態を考える際に参考できる資料として使われることであった。結果の客観性を高めるためには、今度、韓国・朝鮮語の語学授業だけではなく、様々な形式の授業にも調査が必要である。そして、学生の認識の変化課程が見られるように1年を超える縦断的な調査も必要であり、それは今後の課題にしておきたい。

付記

本研究の実践にあたり、韓国・朝鮮語授業を受講し、2回に渡る授業アンケートの調査に参加してくれた学生みなさまに心より感謝を申し上げます。

参考資料 1 オンライン授業に関するアンケート調査票

1. あなたは何年生ですか。
①1 年生 ②2 年生 ③3 年生 ④4 年生
2. オンライン授業の進み具合は適切ですか。
①遅い ②やや遅い ③適切 ④やや速い ⑤速い
3. オンライン授業の内容は理解できますか。
①理解できない ②あまり理解できない ③どちらとも言えない ④ほぼ理解できる ⑤理解できる
4. オンライン授業を通して教員の声や話し方は聞き取りやすいですか。
①聞き取りにくい ②やや聞き取りにくい ③どちらとも言えない ④やや聞き取りやすい ⑤聞き取りやすい
5. オンライン授業での板書やプレゼンテーションは理解しやすいですか。
①理解しにくい ②やや理解しにくい ③どちらとも言えない ④やや理解しやすい ⑤理解しやすい
6. オンライン授業を受ける場所は静穏な環境が確保されていますか。
①静穏ではない ②あまり静穏ではない ③どちらとも言えない ④ほぼ静穏である ⑤静穏である
7. あなたはこの授業にどの程度積極的に参加していますか。
①積極的ではない ②あまり積極的ではない ③どちらとも言えない ④ほぼ積極的である ⑤積極的である
8. あなたは全般的に見てこの授業を満足していますか。
①満足していない ②あまり満足していない ③どちらとも言えない ④ほぼ満足している ⑤満足している
9. オンライン授業の実施環境について最も困るところは何ですか。3 項目まで複数回答可
①Teams の利用方法が分からない
②授業を受けるためにスマホや PC、プリンターなどの機器の利用方法が分からない
③WiFi や LAN ケーブルなど通信のトラブルが生じる
④大学の行事や対面授業などで、リアルタイムでオンライン授業が受けられない場合がある
⑤家の中で静かに授業を受ける場所が確保できない
10. オンライン授業の実施方法について最も困るところは何ですか。3 項目まで複数回答可
①先生に質問したり、直してもらったりする先生とのやり取りができない
②授業内容を確認したり、進み具合などが質問できる友達がいない
③PC やスマホの画面上で行われる一方的な授業に集中できない
④授業で出されている課題が多くて、休む時間がない
⑤オンライン授業で自分の顔が映るのが嫌で、プライバシーが保護できるの心配である

1 1. もしあなたが来年の春学期にこの授業をもう一度受講するのであれば、どのような授業を選びますか。

①対面授業

②オンライン授業（リアルタイム）

③オンライン授業（オンデマンド）

1 2. オンラインで行われたこの授業に関して良かったところがあれば、書いてください。

（自由記述： ）

1 3. オンラインで行われたこの授業に関して改善点などがあれば、書いてください。

（自由記述： ）

1 4. オンラインで行われたこの授業に対して自分の学習態度や取り組みに反省点などがあれば、書いてください。

（自由記述： ）

参考文献

京都芸術大学（2020 年 8 月 7 日付）「2020 年度 前期オンライン授業アンケート概況」[https://](https://www.kyoto-art.ac.jp/student/wp-content/uploads/2020/08/16ffcad9253db7440597b8b30e6a6dbc.pdf)

www.kyoto-art.ac.jp/student/wp-content/uploads/2020/08/16ffcad9253db7440597b8b30e6a6dbc.pdf

慶應義塾大学 SFC（2020 年 7 月 27 日付）「オンライン授業受講に関する調査結果報告」（そ

の 2）https://www.nii.ac.jp/event/upload/20200605-5_Uehara.pdf

東大新聞社（2020 年 8 月 8 日付）「第 1 回東大のオンライン授業アンケート編」

https://www.todaishimbun.org/online_class20200808/

白百合女子大学（2020 年 7 月 9 日付）「2020 年度 前期『遠隔授業に関する状況調査アンケート

の実施状況』」[https://www.shirayuri.ac.jp/news/2020/usftro0000007o6b-att/fdenquete_2020_](https://www.shirayuri.ac.jp/news/2020/usftro0000007o6b-att/fdenquete_2020_01.pdf)

[01.pdf](https://www.shirayuri.ac.jp/news/2020/usftro0000007o6b-att/fdenquete_2020_01.pdf)